

# 特集 01 「絆」が支える「安全・安心」 牛久保東町内会の防災戦略

取材・文：市民ライター 脇田 武

町ぐるみで防災に取り組んでいる牛久保東町内会、その活動組織の名称は「牛久保東町内会町の防災組織」略して「町防(まちぼう)」。

## 牛久保東町内会 会長 宮本 毅 さん

昭和19年9月横浜市港北区に生まれる。現在77歳。38年横浜市消防局に採用され、平成16年まで40年間勤務。在職中に消防大学校助教授にも就任。その後民間の防災顧問に。牛久保東町内会には平成16年から総務担当役員になり、令和元年から町内会長。



## モダンな住宅地で伝統行事

勢いよく燃え上がるどんと焼きの炎、お餅を枝に刺し焼こうと待ち構える子供たち。各地で見られるどんと焼きだが、よく見ると見慣れない物がある。燃え盛る炎とそれを取り囲む人たちを見守るように立っている大小2体の石仏。これは何だろう。牛久保東町内会の宮本会長に訊ねると、「古くから地元で伝わる道祖神(塞(さい)の神)です。」

この町は港北ニュータウンの一角にあり、地下鉄センター北駅から徒歩約15分。モダンな戸建てが立ち並ぶ都会的な住宅地と一部旧市街地が混在する。しかし数々の行事には地元で伝わる伝統がしっかり織り込まれている。それらはちびっこ腕相撲、氏神を祀る祭礼、芸能大会、夏祭り、家族大運動会、敬老行事などひっきりなしだ。



ニギヤカに開催されるJA横浜請地古梅支部と牛久保東町内会によるどんと焼き。そのそばには道祖神がチョココンと鎮座(写真左上)

## 「死者は一人も出さない!」

牛久保東で見逃せないものがある。それは住民を守るための防災活動だ。

「万一大きな災害が発生しても、一人の死者も出さないために組織しました。」

と宮本会長。「牛久保東町内会町の防災組織」、略して「町防」と名付けられている。誕生のきっかけになったのは、

「2011年3月に発生した東日本大震災です。この大災害を教訓にして立ち上げました。震度5弱以上の地震が発生したらすぐに活動を開始します。」

町内会館の看板は「災害対策本部」に変わり、「町防」の幹部10人が駆けつける。しかし町の人口は約5,300人。会館には町民全員を収容しきれない。

「町内には3つの公園がありますが、ここを『いっとき避難場所』に指定してあって、皆さんは一時ここに避難してもらいます。」

「いっとき避難場所」では住民の安否確認が行われる。一方いざという時に備え、避難訓練、防災訓練、消火訓練なども定期的に行う。その中には昼間の在宅が多い主婦が対象の消火ホースを扱う訓練もある。

素晴らしいのは独自に作った「防災マップ」。新聞紙面1ページ大、A2サイズのカラー印刷。避難場所はもちろん、消火栓、危険な塀、AEDなどの所在地、井戸の場所などが明示されている。



震度5弱以上の地震で町内会館は災害対策本部に早変わり



避難訓練の一コマ。一人一人のスペースの確認訓練

しかしこれらを示すことが地図作成の意図ではないという。

「家族全員で、普段から安全な避難ルートを確認しておくために作ったのです」

各家庭に大きいまま折りたたまずに配られたら、全員で避難ルートを確認し、書き込んでおく。地図の表面は筆記具で書きやすく、厚く破れにくい紙が使われている。家族の皆が見やすい所に貼っておき、いつでも確認する。

## 「絆」が育つ伝統的町内行事

このほかにも「町防」には工夫とアイデアが一杯で紹介しきれない。最も大切にしているテーマは何か? 宮本会長は、

「いろいろな行事を通じて町内の親睦が築かれ、顔の見える関係が育ち、人と人とのつながりが実感されるようになることではないでしょうか。」

一言でいうと「絆」が出来たことでは? 「まさに『絆』がぴったりですね。」

伝統の味を持つ様々な行事は都会的な生活を送る町民の魅力になり、防災組織の形成に結び付いているのだ。

この町に限らず、自治会町内会に加入すれば、確かな絆と自分自身のライフラインが確保できることは間違いのないだろう。